



平和資料館

草の家

No.165
2024年12月20日発行



草と草の根の連帯をあらわす
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586
E-mail grh911@dream.jp HP <http://www.maroon.dti.ne.jp/kusanoie/>

※2024年2月よりアドレスが変わりました

歴史を逆戻りさせない 韓国市民に学び 高知に「憲法9条の碑」建立を

12月3日、韓国で一時「戒厳令」が敷かれるという緊迫したニュースが飛び込んできました。

尹錫悦(ユン・ソンニョル)大統領の軍隊を投入した民主主義を破壊する暴挙に、与野党を超えた国会議員と職員は軍の国会議事堂への突入に抵抗し、議事堂の外では市民が駆け付け、銃を突きつける軍隊に命がけて「大統領を弾劾しろ」「市民に銃を向けるな」と抗議。尹大統領は4日未明に戒厳令



「ユン・ソンニョルを拒否する」とプラカードを掲げて
国会議事堂前(ソウル市内)の抗議行動(2024.12.08 金英丸氏 Facebook より)

解除に追い込まれました。1980年、換(チョンドゥファン)独裁政権の下で市民が多くの犠牲をはらった光州事件、1987年の民主化運動を経て勝ち取った民主主義を、命がけて守った韓国の友人たちの無血のたたかいに感動し、敬意を表したいと思います。

日本では、韓国の出来事を利用し「憲法改正で緊急事態条項を整備すべき」の意見が、国会議員やコメンテーターから出ています。自民党改憲実現本部は、憲法9条への自衛隊明記と併せて「緊急政令」の導入を当面の課題にすると強調しています。

「緊急政令」とは「法律と同一の効力を有する政令」(自民党改憲案)とし、国会の立法権限を内閣が奪って、内閣の判断で人権制限を含む広範囲の規制を可能とするという、まさに今回の韓国での「非常戒厳」と同様のものです。

2012年の第二次安倍内閣から、菅政権、岸田政権そして今、石破政権へと、「戦争する国づくり」へと法律が次々施行され、憲法9条がかつてない危機に直面しています。

高知県は安保三文書の具体化である高知港、須崎港、宿毛湾港の特定利用港湾の指定を受け入れました。安保三文書の具体化として、特定利用港湾として高知港、須崎港、宿毛湾港が指定され、県はこれを受け入れました。10月23日から行われた日米共同統合演習「キーン・ソード25」には、自衛隊・米軍が45,000人、艦艇40隻、航空機370機が参加し、北海道から沖縄まで全国規模で訓練が行

われました。訓練先には特定利用空港・港湾の指定を受け入れた空港、港が使用されました。県はこうした事実を把握するも、港湾の指定は「あくまで民生利用が主であり、軍民共有化につながる事はありません」と、防衛省とのウェブ会議での説明をオウム返しです。「戦争は別の顔をしてやってくる」ことを忘れてはいけません。

去る11月11日、平和資料館・草の家は35周年を迎えました。加害・被害・抵抗・創造をテーマに掲げ、反戦・非戦・東アジアの平和のために重要な役割を果たしてきた歴史でもありました。いまこの歴史を共に共有し、創立40年に向けて平和憲法を守り、戦争する国づくりにストップをかける強い意志を込め「憲法9条の碑」の建立を決意しました。2025年は、敗戦・被爆80年です。日本の平和は、東アジアの平和の創造です。平和を愛するすべての人々と手をたずさえ「憲法9条の碑」の建立運動をスタートしましょう。
(岡村 啓佐)

11月11日、「草の家」創立35周年記念の催しがおこなわれました

11日は月曜の夕方からでしたが、草の家で記念館創立35周年を祝う会に35名の人が集いました。岡村正弘館長のあいさつの後、まず「平和資料館・草の家」を紹介する動画2本が紹介されました。そしてこの紹介する動画はインターネットで誰もが見ることができる「ユーチューブ」に掲載するということでした。(写真右)

また、創立者である故 西森茂夫氏の作詞した「北星学園大学付属高校」の校歌「われら一粒の実となりて、」をビデオで視聴しようとしたのですが機器の調子が悪くて、音声が出るまでしばらく待ちました。

次に高知大の小幡尚先生が「戦没者について調べる」と題して「安田町史」の取り組みや、朝倉「陸軍墓地」についての調査を映像も交えながら報告。春から秋にかけて暑さとたたかひながらの丹念な調査から新しい発見もあったことを分かりやすく話してくださいだったので、この事業の意義とご苦労に、本当に頭が下がりました。(写真下)

「草の家」は、こうした県内外の平和を希求する多くの人々の手で支えられ、大きくなってきたことが胸におち、この国立民営の資料館、運動体をますます発展させていかねばと思いました。



5年後の40周年に向けての記念事業が早くも提案されました。「9条の碑」を建立しようという呼びかけです。実行委員会を立ち上げて大きく取り組もうというのです。日が暮れてからの宴会(?)がこの話題で盛り上がったのはいうまでもありません。高知市東部9条の会のメンバーである私にとっても、元気の出る会合となりました。

(藤原 尋子)

満州事変 93 周年・日中不再戦碑建立 32 周年記念のつどい

平和資料館・草の家は、日中友好協会高知支部と共催で、9月16日に「満州事変93周年・日中不再戦碑建立32周年記念のつどい」を、高知市城西公園の碑の前で開き、30数人が参加しました。



主催者挨拶で日中高知支部玉置啓子事務局長（写真）が、「謀略によって満州事変が起こされ、日中戦争で、日本は中国の人々に多大な被害を与えた。それを反省して日中不再戦碑が建てられた。日本では、8月15日の終戦の日はとりあげられても、その戦争はいつ、だれが、どこで、どのように始めたかについては知らされない。戦争を起こさないためには、戦争がどのように始まったかを知ることが大切だ。現在日本は中国を脅威とみなして軍拡を進め、また“もと来た道”を歩もうとしている。

日中平和友好条約の精神に立って日中関係を進めていくべきではないか。」と訴えました。

続いて、参加者全員で、日中戦争における犠牲者に対して黙祷をささげました。

来賓の桑名龍吾高知市長からのメッセージ「不再戦碑を前にして戦争を繰り返さないという決意を新たにし、平和な世界を次の世代に渡せるよう努力していかねばならない。高知市は安徽省蕪湖市と友好都市提携をしており、来年は提携40周年になる。平和思想の承継と合わせて、国際交流を深めていきたい。」（要旨）代理の方が読み上げました。

同濱田省司高知県知事からは、「高知県は、安徽省との友好提携を結び、今年が30周年になるのを記念して、交流をさらに深め、日中友好に貢献していきたい。

国際的な緊張や紛争が広まる中で、平和の重要性が一層増している。対話と理解を深め、ともに協力し合うことが大切だ」

（要旨）とのメッセージが届き披露されました。

続いて、平和資料館・草の家の出原恵三副館長が「戦争遺跡を東アジア近代史の中に」と題してスピーチを行いました。

出原副館長は、「戦争の記憶は『人から物へ』とのスローガンで、戦争遺跡保存運動が盛んになった。しかし、日本にある戦争遺跡の大半はアジア太平洋戦争最後の1年に集中している。それ以前の戦場はすべて中国、など東アジアで、そこに何倍もの戦争遺跡が存在する。それらは日本の戦争が侵略戦争であったことを証明する。戦争遺跡はどんな小さなものでも、国内で完結できるものは一つもない。加害の立場にたつて、戦争の歴史や記憶を語り継ぎ、次世代にバトンを渡す場として戦争遺跡の果たす役割は大きい。」と述べました。

日中両国の平和と文化交流の発展を願って、高知支部太極拳教室と日中友好中国帰国者の会太極拳教室合同で、簡化24式の演技が披露されました。（写真）

最後に、平和資料館・草の家岡村正弘館長が、「今、“新しい戦前”と言われている中、知事と高知市長から戦争を繰り返さないという趣旨のご挨拶をいただいて大変良かった。力を合わせて戦争への道を止めよう。」と閉会のあいさつをしました。

（玉置 啓子）



「戦争は別の顔をしてやってくる」特定利用港湾指定

～2024年11月24日(日)宿毛フィールドワーク&報告学習会に参加して～

中村宿毛道路→宿毛新港西側公園（「宇須々木の旧海軍基地」説明板前から飛行艇揚陸スロープ・飛行艇の係留場・兵舎跡・弾薬庫跡・栈橋跡・貯油庫跡を望む）→宿毛新港岸壁（南正面に大月町白浜、北に西南空港予定地、東に弾薬庫建設予定地を望む）→丸島（西に弾薬庫予定地を望む）→「道の駅すくも」にて昼食→大月町農村環境改善センターにて学習会。



講師は、山下正寿先生「自衛隊呉基地の実情と中西哲氏の一般質問から見える宿毛の危険性」。浦木秀雄大月町議「大月町白浜の動き」。今城隆宿毛市議「宿毛湾の動き」。両議員は、計画の策定経緯と今後について議会で更に深く質問を予定しているとのことである。

山下先生からは、船舶潜水艦のスクルーが底層をかき混ぜると生物に影響を与えないか、ホバークラフト型上陸用船艇は、音も水しぶきも激しい。また、大月の鮪養殖4業者のうち県選出国會議員の親族企業が、なぜ橘浦の外2kmの地点で養殖の許可が出たのか、潮流を妨げて海洋を汚染しているのではないか、橘浦は宿毛漁協に所属していない、漁業補償はどのようになるのか、以前から私有地を買集めていた不動産業者の話など、ほかにも多数の不明点を指摘されていた。

マグロ養殖と特定利用港湾指定との関係がもうひとつ気になっていたところ、「大月町産本マグロ！解体即売会 サンゴの海で育ちました 全身トロマグロ、ぜひご賞味ください マグロのまち大月推進協議会」の新聞折込チラシ。12時に出かけたら大月町観光協会担当者から、「少し大きい61キロを解体、柵も持って来たが30分前に完売、250人。」4社のパンフレットを頂戴し、マグロの養殖場は四角形ではなく丸型にして、流されないように係留していると教えてもらう。Google地図衛星画像で丸い生け簀が見えた。



12月1日(日)の須崎フィールドワークに参加できず残念に思っていたが、11年前に海の日関連行事で高知港湾・空港事務所の港湾作業艇「とさかぜ」による高知港・須崎港みなとウォッチングに参加したことを思い出した。両港は地形が似ていると感じた。小さい頃、写生会にも参加したことを思い出し、検索。高知みなとまつり実行委員会のInstagramがヒット、かわいらしい入賞作品の中に、とてもとても上手な自衛隊の艦船が3年間1点ずつ上位に入選している。そして、その作品が翌年度のみなとまつり開催ポスターとこども絵画コンクール（主催：高知みなとまつり実行委員会、後援：高知市教育委員会）作品募集ポスターに使われている。小学校の図工の先生方の間では既に話題になっているかもしれない。私は今回フィールドワークに参加して気付いた。

戦争は別の顔をしてやってくる。そこまできちゅうかもしれない。

(鍋島 佐知)

「旧陸軍第32軍司令部壕跡」が沖縄県史跡に

アジア太平洋戦争末期、沖縄では住民を巻き込んだ阿鼻叫喚の地上戦が行われ県民の4人に1人と言われる15万人の命が奪われました。その沖縄戦を象徴する戦争遺跡である旧陸軍第32軍司令部壕跡が、去る11月29日に沖縄県史跡として文化財指定されました。

世界遺産首里城の地下にある司令部壕跡は、これまでも保存公開が何度か求められては頓挫するという経過がありました。2019年に焼失した首里城の再建作業が開始されるなか、首里城と不離一体に沖縄の歴史を刻むものとして市民団体や学術団体から学術調査や保存整備、公開が求められてきました。

「草の家」においても2020年に保存署名に取り組みました。

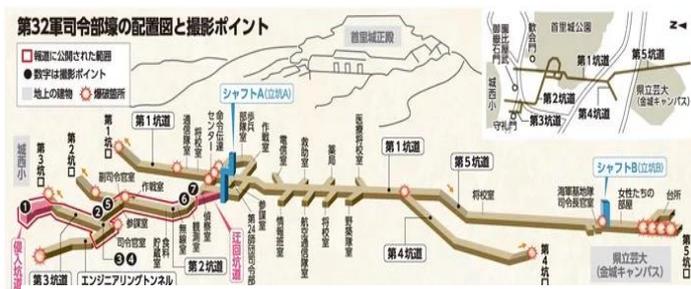
司令部壕は1944年12月から45年4月の米軍上陸直前まで軍や動



司令部壕第5抗口（2020年筆者撮影）

員学徒、住民によって構築されたもので、総延長1 km以上とされています。司令官室や作戦室、通信室、居住区などが設けられ、壕内には1,000人余りの将兵・軍属・学徒・慰安婦などが雑居していました。司令部壕は、牛島満軍司令官のもとに本土防衛の時間稼ぎのために「軍官民 共生共死」の方針による「出血・持久作戦」が練られ、住民の犠牲を増大させた南部撤退が決定されたところ。周辺では日本軍による住民虐殺も起きています。司令部壕跡はこのような沖縄戦の性格が決定された場所です。壕内には79年前の状況をそのまま留めている箇所があることや収容されるべき遺体の存在も指摘されています。司令部壕跡は、沖縄戦の実相を伝える「生き証人」であり第一級の戦争遺跡です。今後詳細な学術調査の裏付けによるさらなる沖縄戦の解明にも期待したいと思います。全国には386件の戦争遺跡が史跡など文化財指定されていますが、アジア太平洋戦争期に属するもので県指定された例は今回が初めてです。今後他県への影響も大きいのではないのでしょうか。

周知のように、戦後80年を前に沖縄を中心とする南西諸島は、辺野古新基地をはじめ新たな基地建設が次々に強行され、琉球弧は軍事要塞化を遂げつつあり再び戦場とされかねない危険な状況にあります。県指定に際し玉置デニー知事は「戦争の不条理さ、残酷さ、醜悪さを知るとともに、平和の



琉球新報（2024.11.28付）より

尊さを伝える貴重な遺跡」と強調しています。また現在、首里城公園には「第32軍司令部壕説明板」が設置されていますが、「同説明板設置委員会」が提出した説明文から「慰安婦」「住民虐殺」の文言が県当局によって一方的に削除されました。沖縄戦の本質を隠蔽する行為です。戦争遺跡は、何のために保存するのでしょうか、戦争の実相に向き合い二度と過ちをくり返さないためです。司令部壕跡が県史跡となった今、沖縄戦の本質を伝えるこれらの文言を記載の説明板の設置も強く求めたいと思います。

（出原 恵三）

「ビキニの海からの証」上演を終えて

11月30日（土）、劇団the. 創が舞台「ビキニの海からの証」を上演しました。構想から4年、劇団員も被災者の遺族から聞き取りを行ったり、ビキニデーin高知にも参加し元船員さんの話を聞いたりして準備を進めてきました。諸事情があり上演も2年程延期されましたが、この劇にかける思いは強く、劇団を応援してくれる多くの方、太平洋核被災センターや共演して下さった高知センター合唱団のみなさん、写真を提供してくれた岡村啓佐さんらに支えられこの日を迎えました。

今回のテーマは難しく初演の方も多く、みな仕事や家庭、活動を抱えながらの練習は思うようには進みませんでした。当日になっても不安の方が大きかったですが「高知のアマチュア劇団の自分たちにしかできない舞台がある」と幕が上がる直前に気合いを入れ、最初の航海の場面ではみな声を取り上げ緊張も吹き飛び、みんなが本当の船員のように頼もしく見え、いい意味で開き直れた感触でした。



幡多ゼミの先生役を演じる宮川真幸さん（左）

前半は幡多高校生ゼミの活動が中心です。人前に出ることが苦手な子もおり、当日やっとマスクを外せた子もいますが、2か月間の劇の練習を通してそれぞれが成長してきました。当時の高校生の純粋な気持ちが船員さんや遺族の心を動かしたように子どものまっすぐな演技は見る人の心に響きます。最前列で観てくださったゼミOBや顧問の方も子どもの演技に当時の記憶が鮮明に蘇ったと聞きました。

始めは緊張していた他の演者たちも客席からの拍手や手拍子、時に起こる笑い、観客の息づかいに応答するように演じる側と観る側という垣根を越えて会場が一体感に包まれ、次々と覚醒していきました。この劇で自分は何を伝えたいのかそれぞれが問い続け、上手い演技でなくとも全力で臨んだからこそ観る人の心を打ったのかもしれない。

昼の部のカーテンコールでは、幡多ゼミOBと顧問の先生、室戸の船員さんと遺族の方、第五福竜丸展示館学芸員の市田真理さんに舞台から一言お話を頂きました。それぞれの発言が深く結びつき演劇の内容が意味づけられました。第五海福丸の元船員小笠原さんはカーテンコールで日本被団協がノーベル



幡多ゼミの高校生役を演じた学生たち

平和賞を受賞したことに触れ、過去の問題ではなく今を生きる私たちの問題であることも示されました。世代を超えての共演で幡多ゼミの「黒潮に平和を」を歌い幕が下ります。見送る時に多くの方に声をかけて頂き、遺族の方から「感動した」「泣けた」「この劇をしてくれてありがとう」と言われました。その後楽屋での座談会も行いました。ゼミOBや顧問の方、市田真理さんからも劇中に何度も泣いたと言われました。子役たちは、今日覚め始めたこの事件への思いを語りました。

重いテーマを扱いましたが、演劇だからこそ人の心の琴線に触れた部分もあり、劇中に遺族のスピーチとして今年マーシャルを訪れたことや裁判の報告も織り交ぜ今も続いている問題であることを投げかけました。文化活動は平和を創る活動そのものだと思います。今回7名の子どもたちが出演したことで多くの先生達、親や親せき（私の義理父母等も…）、友だちも見に来てくれ核のない未来を考える裾野も広がったのではないのでしょうか。座談会でゼミOBの方が「調査も心に残ったけど単純にみんなが集まるのが楽しかった。」と言われていましたが演劇を通して同じ時間を過ごし、仲良くなった子どもたち（私の息子も）の交流も続いており、また何かの活動につながるかもしれません。

地域や社会を見つめ他者と繋がり青春を謳歌しながら学び合い表現できる場所、付き添ってくれる仲間や大人がいればいつの時代も青年達は社会を変える力、無限の可能性を秘めています。私たちはこれからも演劇を通して、私たちはどう生きるのかを問い、それぞれの生きることを励ます舞台を創っていきたく思います。

改めて上演を支援して下さった皆さま、当日見に来て下さった皆さま、ありがとうございました。

（宮川 真幸）



講演する山根和代さん（11.3）

2024年8月29日以降の動き

- 09/02(月) 「中村恵子さん」を囲む会（14名）
- 09/03(火) 「榎村浩」墓前祭（11名）
- 09/07(土) 「戦雲」高知市港南地域上映会（長浜教育会館 28名）
- 09/09(月) 「戦雲」高知市上映実行委員会（草の家）
- 09/09(月) 「戦雲」高知県上映連絡会（草の家）
- 09/16(月) 満州事変93周年日中不再戦碑建立32周年記念のつどい（35名）
- 09/19(木) 高知憲法アクション呼びかけ人会議（担当：岡村和）
- 09/19(木) 憲法アクション・19日行動（高知市中央公園北口 35名）
- 09/19(木) 高知ペンクラブ「たのしくまなび、会う会」講師（岡村副館長 15名）
- 09/20(金) 「8・15戦争を語りつぐつどい」実行委員会（11:00～ 県教組会議室）
- 09/21(土) 「戦雲」高知市上映会（こうち男女共同参画センターソーレ）
- 09/21(土) 第24回「県詞の日」記念講演会（自由民権記念館 42名）
- 09/26(木) 草の家・第4回常任理事会
- 09/26(木) 「2024ピースウェイブ in こうち」第2回実行委員会（草の家）
- 09/27(金) 「草の家だより」No164 発行
- 09/30(月) 高知県民主青年同盟・香南市「震洋隊殉国慰霊塔」などの戦跡フィールドワーク（10名松村）
- 10/05(土) 第10回「高知朝倉陸軍墓地」忠霊塔調査
- 10/05(土) 「戦雲」香南市地域上映会（県立青少年センター 67名）
- 10/10(木) 「戦雲」高知市上映実行委員会（草の家）
- 10/10(木) 「戦雲」高知県上映連絡会（草の家）
- 10/12(土) 「戦雲」安芸市地域上映会（安芸市民会館）
- 10/19(土) 全国みんけん連第5回大会・高知大会（～20日迄）
- 10/21(月) 高知憲法アクション呼びかけ人会議（岡村）
- 10/30(水) 「沖縄・高知連帯ツアー」顔合わせ会（草の家）
- 11/03(日) 憲法公布78周年県民のつどい「戦争の記憶と平和憲法」150名（こうち男女共同参画センターソーレ）
- 11/04(月) 高知県埋蔵文化センター・講座「考古学研究の世界②（高知の戦争遺跡）」（吉成）
- 11/09(土) 「キセキ遺留品返還プロジェクト」のジャガード千津子氏（アメリカ・イリノイ州）来館（出原）。（写真）



MADE IN OCCUPIED JAPAN (占領下の日本で作られた) とマーキングされた磁器製「楊子立て」の寄贈を受ける。(写真)

- 11/11(火) 「平和資料館・草の家」創立 35 周年記念レセプション
(35 名・懇親会 27 名参加)
- 11/15(金) 「沖縄・高知連帯ツアー」(荒天のためキャンセル)
- 11/18(月) 高知憲法アクション呼びかけ人会議 (岡村)
- 11/19(火) 高知憲法アクション「19 日行動」(中央公園北口約 40 名)
- 11/22(金) 西森茂夫さん北海道大学時代の同期 5 名来館
- 11/23(土) 中村江里准教授 (上智大学・戦争後遺症研究) 来館
- 11/24(日) 「軍事化反対フィールドワーク in 宿毛」
(高知市や周辺自治体、地元含む約 40 名参加)
- 11/24(土) 第 7 回満州の歴史を語り継ぐ集い (高知市立自由民権記念館)
- 11/26(火) 高知県立大学社会福祉学部・公開講座、野田正彰氏 (草の家特別顧問) による「日本の精神医学・精神医療の本質」講演会 (高知県立大学池キャンパス)
- 11/28(木) 第 5 回常任理事会 (草の家)
- 11/29(金) 第 11 回朝倉陸軍墓地忠霊塔調査 (朝倉陸軍墓地忠霊塔)
- 11/30(土) まもろう平和・なくそう原発 ACT10in こうち (高知市中央公園)
- 11/30(土) 劇団 the. 創「ビキニの海からの証」公演 (高知県立美術館ホール)



紹介① ⇒



紹介② ⇒

「草の家」紹介動画を公開しました。

「草の家」は、このほど、動画作品を公開しました。現在、動画サイト「Youtube」で確認いただけます。ぜひ、ご覧ください。

作品は二つあり、一つは館外から入口にかけての資料紹介、もう一つは館内の展示についてです。撮影・ナレーションは「草の家」会員が行いました。

今後は、「加害」「被害」「抵抗」「創造」をテーマとした作品の公開を予定しています。会員の皆様からのご意見やご感想をお待ちしております。

「2025 年・新年会」のご案内

とき：2025 年 1 月 26 日(日) 10:00～

ところ：平和資料館・草の家

例年のように「餅つき」や「文化行事」、そして懇親会を計画中です

